



あすなる忌20170129



あすなる忌

恒例の伊豆文学まつりのオープニングイベントとして『あすなる忌』が平成29年1月29日井上靖の命日に行われました。

『あすなる忌』は伊豆市湯ヶ島にある天城会館を主会場に、伊豆市教育委員会と井上靖ふるさと会の共催で行われました。

案内には天城湯ヶ島から見た富士山の写真に天城湯ヶ島を題材にした井上靖の詩が紹介されていました。

地球上で一番清らかな広場
北に向かって整列すると、
遠くに富士が見える。
廻れ右すると天城が見える。
富士は父、天城は母。
父と母が見ている校庭で
ボールを投げる。
誰よりも高く、美しく、
真直ぐに、天にまで届けと、
ボールを投げる。

井上 靖

『あすなる忌』は昼食を挟んで以下の構成になっていました。

1. 井上靖の墓参(熊野山墓地)
2. 井上靖作品感想文・感想画発表・表彰式
3. 昼食
4. 映画上映会「千利休 本覚坊遺文」井上靖作品

墓参は参列者の一同が合掌礼拝した後に、井上家代表として長男の井上修一氏が献花、続いてふるさと会会長宇田治良氏、伊豆市代表菊池豊市長が献花しました。

そして、西井教育長より、井上靖読書感想文集が献上されました。
(写真左は井上靖の墓、右は井上家の方が線香を手向ける様子)



あすなる忌20170129



あすなる忌

一般の参列者も全員が井上靖の墓に線香を手向けることができました(写真左)。最後に井上家を代表して、長男の井上修一氏が挨拶をして(写真右)墓参は終了しました。



[あすなる忌](#)

[あすなる忌](#)

井上家の広い墓地には瓊花(けいか)を紹介する案内があり、難しい字に興味を持ちシャッターを押した。文章を読むと井上靖との関係が見えてきた。唐招提寺を創建した鑑真和上が上陸した佐賀県の森林公園内に「鑑真和上嘉瀬津上陸の碑」が建立され、井上靖が碑文「若葉して」を書いている。その碑文の周りには、鑑真和上の故郷である中国揚州から持ってきた瓊花が植樹された。平成12年5月に佐賀市より、株分けされた瓊花2株がこの墓地に植樹された。スイカズラ科に属し、5月頃にガクアジサイに似た5弁の白い花が咲くと記されていました(写真左右)。



[あすなる忌](#)

[あすなる忌](#)

墓参が終わり、参加者は次の会場である天城会館に移動しました(写真左右)。



[あすなる忌](#)

[あすなる忌](#)

井上靖作品感想分・感想画発表・表彰式が行われ、長男のドイツ文学者の井上修一氏が挨拶をされました(写真左)。井上修一氏を囲んで受賞者と主催者の記念撮影(写真右)。



会場の天城会館ロビーには感想文(写真左)と感想画(写真右)が展示されていました。



表彰式が終了して、昼食会場に案内されて、ふるさと会の皆さんが準備した昼食をご馳走になりました。井上靖の作品「しろばんば」に出てくる、おぬいばあさんのカレーもメニューに入っていました(写真左)。地元の素材を使った昼食は大変美味しい料理でした(写真右)。



天城会館のロビーには井上靖『しろばんば』・『夏草冬濤(なつくさふゆ)』の舞台が紹介されていました(写真)。
今年(2024年)は井上靖生誕110周年にあたり、記念公演『しろばんば～久保田の人々～』が(4月29日13時30分開演・天城会館劇場ホール)予定されています。劇団しろばんば主催で入場無料となっています。
午後からは『千利休 本覚坊遺文』を鑑賞しました。文豪・井上靖の偉大さと、育った天城湯ヶ島の魅力の一端を垣間見た気がしました。

取材：東部・田方地区生きがい特派員 加藤 孝